

## 平成28年度事業報告

平成28年度一般財団法人狛江市文化振興事業団の施設利用、自主事業に関し、以下をご報告いたします。

まず、第3期指定管理期間の3年目となった平成28年度の施設利用状況ですが、ホール稼働率は62.2%で昨年比3.7%増となり、1年目の60%と比べても2.2%増となりました。展示・多目的室稼働率は64.8%で昨年比2.9%減、そして、リハーサル室稼働率は84.1%で昨年比2.4%減となりました。昨年度は一カ月以上に渡る修繕工事が減要因の一つと考えられましたが、今回は期間が2週間程と短期間であり、あまり影響が出なかったと考えられます。展示・多目的室やリハーサル室は多少の減がありましたが、平日は定期的な市民団体、個人のご利用が変わらずあり想定内と考えられます。ホールの平日利用に関し稼働率のアップを年々考えますが、個人、市民団体による平日利用は限られており難しいため、ホール備品のピアノを利用しての施設有効活用を今後、検討していきたいと考えます。なお、舞台修繕計画により平成29年1月の約2週間をかけ、ホール舞台照明調光基盤の更新を行っています。

次に自主事業ですが、ホールは21事業21公演（共催5公演を含む）、ロビーは6事業6公演を実施しました。例年通り様々なジャンルを取り上げていますが、チケットが完売となった公演は7公演でした。鑑賞型事業ではポピュラー系の大きな企画として「クレイジーケンバンド」をメインに、「世良公則」、「ブラザーズ・ファイブ」、「宇崎竜童」と団塊世代には懐かしい出演者による公演を並べ、好評をいただきました。クラシック系では元狛江在住で隣町在住のヴァイオリニスト、徳永次男氏がデビュー50周年、70歳を迎えたことからお祝いを兼ねた公演を企画、また、5年振りのバレエ企画として松山バレエ団による「くるみ割り人形」の公演を行いました。平成23年に実施し大好評だった「小曾根真ピアノ・ソロライブ」を再演し、今回も本公演前に子どもたちのためにプレコンサートを実施し盛況となりました。古典芸能系では、開館以来、初めて「文楽」を取り上げました。

参加型事業ではアーツカウンシル東京との共催による「パフォーマンス・キッズ・トーキョー」を実施。3回目となった今回は認知度が高まり、定員を大きく上回る参加応募があり、また、発表公演見学者も475名と過去最高となりました。自主制作型事業は「オープンハウス」と「エコルマ・アンサンブルコンサート」を実施。「オープンハウス」は貸し館での利用が多いバレエをテーマに取り上げ、狛江在住のバレエ指導者の方と東京バレエ団の協力を得て実施しました。また、「エコルマ・アンサンブルコンサート」では平成25年度エコルマホール新人・若手アーティストに対する文化芸術活動支援対象者がメンバーのレスパス弦楽四重奏団を取り上げました。

また、狛江市からの委託協力事業として市内小学4～6年生を対象とした公共ホール音楽活性化事業ガラコンサートを実施。支援型事業に関しては公募により2団体を決定、実施しました。

チケット販売など相変わらず厳しい状況が続きますが、今後も個人、団体関係機関のご協力を仰ぎ、また近隣の関係機関とも情報交換に努め、満足いただける事業を実施して参りたいと存じます。